

熊本市救護施設協議会

熊 救 協

<http://kumakyukyo.sakura.ne.jp>

ごあいさつ

熊本市救護施設協議会会長 藤本和彦



新年あけましておめでとうございます。熊本市救護施設協議会並びに傘下7施設に対する日頃の御指導・御支援に厚く御礼を申し上げますと共に、今年もどうか宜しくお願い申し上げます。

12月の初旬にビッグサイトにあるタイム24ビルで開催された全国救護施設協議会常任協議会（従来の理事会）の合間を縫って、明治神宮外苑に隣接する建設中の「新国立競技場」を見に行き、その足で新宿御苑まで足を伸ばしました。改めて首都東京への富の集中の凄さを思い知らされました。その反面、首都圏を中心とした大都市では、劣悪な居住環境に住まわせて生活保護費を搾取する「貧困ビジネス」が、社会的な問題となっています。

この「無料低額宿泊所」問題については、国の「社会保障審議会生活困窮者自立支援及び生活保護部会」で11回に及ぶ審議を重ねられ、この度「報告書」を出されました。

報告書では、無料低額宿泊所に対して、サービスの最低基準を設けるよう提言しており、居室面積やトイレの設置台数、入浴回数などが規制の対象にすべきとされています。

また、現在の事後届け出制から事前の届け出制に改め、質の良いサービスを提供している事業者を支援していく方策を検討し、通常国会に社会福祉法の改正案として提案されることとなります。

私も救護施設もこれを機会に、自分たちが提供している福祉サービスの質を確り見つめなおし、広く国民や行政の負託に応える体制を築いて参りたいと思っています。なにとぞ、倍旧の御支援をお願い申し上げます。

～ 居宅訓練事業への取り組み～ 野坂の浦荘編

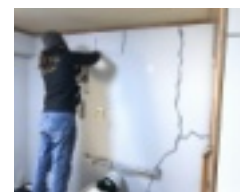
野坂の浦荘では平成26年4月から居宅生活訓練事業を開始しました。本来ならば、施設近辺のアパートを借りて訓練事業を行いますが、地域内にはアパートがない為に、施設に隣接する空き家を改修し訓練棟としました。訓練棟は、リビングを挟み2部屋ずつ全部で4室の個室を用意しました。また、西側の高台に位置しているので夕方になると、天草の島々と不知火海に沈むきれいな夕日を眺望する事ができます。訓練事業は、3年間で男性6名、女性3名、計9名の方が訓練を行ってきました。今年度は男性3名の方が訓練を行っています。まず日中活動として、午前中は作業訓練（みかん、唐芋、玉ねぎ、大根他の農作業）への参加、午後は居宅生活訓練事業計画に沿った訓練を行っています。訓練は、施設内だけではなく、地域交流も兼ねて地元地区への奉仕活動や就労に向けた体作りを目的として、近くにある公園の清掃活動も取り入れています。また、地区で開催されるグラウンドゴルフ大会にも参加して、地域の方々と楽しい時間を過ごし、コミュニケーション能力向上の訓練も行っています。訓練を重ね、施設として地域移行が可能と判断しても、入所以前の生活歴や疾病等の理由により家族等の同意や協力を得ることが出来ない事もあり、施設と本人の気持ちだけでは自立出来ない難しさも痛感しているところです。1年間という長いようで短い期間の中で、訓練の成果を出す為に日々試行錯誤していますが、なかなか結果が見えずに4年目の事業となりました。これまで、一人で公共交通機関を利用し熊本市の家族へ面会に行けた。調理経験のなかった者が自炊出来るようになった。作業に参加していなかった者が参加するようになった。等の成果もみられましたので、今年度は特に就労に向けた積極的な就職活動に取り組んでいく予定でいます。自立支援は、職員の思いと訓練者の思いが一致しないと、充実した訓練に繋がらないので地域との交流を更に深め、福祉事務所との情報交換、社協や民生委員との連携を密にとりながら、訓練者が自立に向けて、より一層居宅生活訓練事業に励んでいけるように支援していきたいと思っています。



【銀杏寮】 ～地震被害復旧工事に際して～

熊本地震から1年半、10月より復旧工事が始まりました。施設建物、敷地内設備に無数のひび割れ、段差が生じており、目にする度に苦い思い出が蘇っていました。

4か月の作業工程は順調に進み、徐々に被害箇所は無くなっていきました。室内工事では利用者に居室を空けてもらう必要があったため、施設内作業棟にブースを仮設し空き部屋と併せ場所を確保し、数名ずつ移動して過ごして頂きました。



一泊限定でしたがブースで過ごされた利用者は、慣れない場所に「眠れなかった。」と疲れた様子でした。工事に伴い利用者には負担を掛ける事になりましたが、復旧したことで震災による心の傷が癒えていくことを願っています。

9月9日の救急の日には備蓄食品を使用した給食を提供しました。利用者には被災経験と支援して頂いた方々への感謝を記憶しておいてほしいとの思いがあり、今後もこのような取り組みを続け、災害に備えていきたいと思っています。

【真和館】 ～ひまわりの会（統合失調症学習会）始動！！～

真和館には、平成29年4月1日現在で27名の統合失調症の方がおられます。日頃、統合失調症の方が、人間関係で悩まれる姿や感情のコントロールの難しさを感じている場面をよく目にします。統合失調症という診断ではありますが、どのような病気であるかを知らず、自分に起こり得る症状を認識していない方が殆どでした。そこで、平成29年5月、統合失調症の方を中心とした学習会「ひまわりの会」を立ち上げました。学習会は週1回、精神状態が左右されることもあり毎回10名程の参加です。参加者からは、「今迄統合失調症について教えてもらうことはなかった」「病気を治したいから資料をください」等の声が上がっています。普段、口数が少ない方も会に参加すると、陽性症状をすらすら話されます。仲間だからこそ話しができていたような感覚さえ見受けられました。ひまわりの会の目的は、感情を上手に自己コントロールができるようになること、また、統合失調症がどのような病気であるか、そして対処法等を知ること、さらには、同じ病気の仲間を支えることです。今後も、病気と向き合いながら自分も相手も大切にして、精神状態が安定した毎日を送るために、ひまわりの会を継続開催していきたいと思っています。

【菊池園】 ～餅つき慰問がありました！～



地元・菊池市泗水町青年団の方々が“餅つき慰問”として来てくださいました。杵と臼を準備していただき利用者と一緒に餅つきを行いました。利用者の方々は、この日を楽しみに待っていました。もち米が蒸しあがると、ぺったんぺったんと餅をつく音が聞こえ始め、餅が出来上がると利用者がそれぞれに丸めました。出来たての熱い餅を慣れた手つきでちぎる利用者の姿も見られました。おいしく出来上がった餅は、その日の食事に早速いただきました。



熊救協 2018 1月号 (No.31) 編集後記

救護施設に勤めて2年半が経ちました。ようやく仕事にも慣れ、日々の業務や行事等、慌ただしくも充実した毎日を送っています。当施設では、農作業訓練を行っており、作業を行う中で入所者の方々に教わる事も沢山あり、収穫の時期を共に楽しみにしています。今後も、初心を忘れることなく、笑顔を大切に頑張っていきたいと思いますので、これからも皆様のご指導よろしく願います。

《熊救協調査研究委員 鶴川 君子（野坂の浦荘）》

編集：熊本市救護施設協議会 事務局：〒861-2401 熊本市阿蘇郡西原村大字鳥子3072番地
調査・研究委員会 真和館 TEL (096) 279-1121
発行：熊本市救護施設協議会 FAX (096) 279-1122

熊救協研修委員会報告

第1回熊救協救護施設職員研修会

期日：平成29年6月15日（木）

場所：救護施設菊池園

平成29年5月30日に落成式を終えたばかりの救護施設菊池園において、県内7救護施設の職員31名の参加により、今年1回目の救護施設職員研修会を開催しました。研修の中で施設見学をさせていただきましたが、熊本地震を踏まえた耐震性や経費削減に向けた省エネルギー対策を考慮しており、地域の方々との交流や福祉避難所を想定したホールや利用者の生活支援を考えた居住空間設計など、よく考えられており感心するばかりでした。

今回の研修は、事前に各施設から提出された質疑事項について、各職種ごとにグループ討議形式で行いましたが、目指す方向は同じであっても方法は各施設それぞれという部分が多く、各問題点等を解決するまでには至らなかったとは思いますが、問題等を解決するヒントを多く得ることができたのではないかと感じました。

第2回熊救協施設職員研修会（第8回熊救協・九救協合同研修会）

期日：平成29年10月10日（火）

場所：くまもと森都心プラザ6階A・B会議室

九州各県救護施設から56名、今回は関係機関からの参加も21名と計77名の参加により、「こころの病気（精神障害）に関する研修会」～支援者の感情整理とコミュニケーションの手法について～と題して開催しました。

午前は、オフィスDear代表の今村 ゆか様に、「怒りの感情と上手に付き合う方法」について講演いただき、怒りとは感情表現や防衛感情でありなくすることはできないが、上手にコントロールすることはできるということを学びました。

とにかく自分を中心に物事の判断をしてしまうが、人それぞれの考え方、あり方があることを認め、自分の考え方、あり方を変えていくことが大切であると感じました。

午後は、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターの心理療法士 中川 康子様に、「アルコール依存症者に対する現場でのクラフトの実践について」講演いただき、依存症を患っている方に対して、家族又は関係者がどのように関わり支援していくことが重要であるかについて学び、今までの実践例を交えながらグループでのロールプレイングで模擬対応が行われました。この講演では、コミュニケーションスキルの大切さを実感することができました。

今年度も、熊救協施設職員研修会には多くの方々に参加いただきましたが、これからも様々な研修に参加いただき、自身のスキルアップを図っていただきたいと思います。



各施設トピックス

【千草寮】 ～茄子の収穫体験～



八代地域にお住いの農園の方から茄子収穫のお声がかかり、貴重な体験をさせていただきました。初めて入るビニールハウスの中の暑さと大量に輝く茄子畑に声を出して驚かれました。収穫になると茄子にトゲがあり最初は苦戦しましたが慣れると楽しんで作業をされ素晴らしい経験をする事が出来ました。収穫した茄子は施設の方で美味しく頂きました。これからも地域の方との交流を大切にし、ボランティア活動も進んで活動したいと思います。



【天草園】 ～天草園ミニ文化祭～

去る12月5日、多目的ホールにて天草園ミニ文化祭を開催しました。今回が初めての開催で、クラブ活動や個人的に趣味等で取り組んでいる色々な活動の成果を、展示や舞台発表の形で紹介し、日頃のクラブ活動や個々の趣味活動の更なる充実、又クラブ活動や趣味活動への新たな参加や取り組みに繋げることを目的に実施しました。踊りクラブと音楽クラブは、展示と舞台発表、その他のクラブは展示のみという内容で計画し、準備は職員だけでなく、利用者も一緒に出来栄を楽しみながら行うことが出来ました。当日は、始めに副施設長より文化祭の目的等の説明が行われ、主旨を大体理解して頂いたうえで、各クラブ担当より、活動内容や展示品の説明及び参加を呼び掛けるプレゼンを10分～15分の所要時間で行いました。又、最後に食堂当番や洗濯当番、廊下のモップ掛けや消毒、グラウンドや空き地の除草作業や庭木の剪定作業、又地域の廃校となった小学校の県道沿いの花壇や県道の掃除等年間を通して自主的に取り組まれている利用者についても、写真付きで紹介し日頃の労を労いました。文化祭を終えて、私達の思いをどれだけの利用者の方に共感頂いたかはわかりませんが、何でも良いので新たに取り組み、毎日の生活リズムの確立や生活の質の充実に繋がるきっかけになって頂ければ幸いです。



【野坂の浦荘】 ～第36回野坂の浦荘運動会～

10月25日（水）に運動会が行われました。予行練習の日は、あいにくの雨で室内での練習となりましたが、当日は天候にも恵まれ、爽やかな秋晴れのもと開催する事ができました。競技内容も職員全員で検討し合い、入所者はもちろんのこと、参加してくださる地域の方々、来賓の方々、入所者のご家族の皆さん、民生委員や福祉事務所、保育園児に楽しんで頂けるような手作り感満載の運動会でした。地域の方と入所者がペアになって行う競技では、笑いが飛び交い賑わう場面もあり、入所者の普段見る事の出来ない笑顔や一所懸命な姿にとっても感動した1日となりました。誰も怪我する事なく無事に終了し、大成功の運動会でした。



【しらがね寮】 ～一泊社会見学に行ってきました～



10月18日から19日に福岡方面へ一泊社会見学に行ってきました。旅行日和に恵まれず小雨が続き、太宰府天満宮の散策は諦めましたが、九州国立博物館では、日本とアジア、ヨーロッパとの文化交流の歴史をゆっくりと観覧することができました。その日は、筑後川温泉に宿泊しました。

次の日は、如意輪寺「かえるでら」へ行き、「悪いことを良い方にかえる事ができ、きっとあなたの人生を楽しく豊かにかえる事が出来るでしょう。」と励まされて、楽しい一泊社会見学は無事終了しました。

